

平成 29 年 度

事 業 報 告 書

社会福祉法人 福 陽 会

特別養護老人ホーム 第3サンシャインビル
短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護（ショートステイ）

事業報告目次

項 目	ページ
事業報告	
1. 事業報告(総括)	1-2
2. 職員構成	2
3. 会議・懇談会・委員会開催状況報告書	3-4
4. 処遇報告	4-6
1) 2F 事業報告・活動報告	
2) 3F 事業報告・活動報告	
3) 4F 事業報告・活動報告	
4) 移動理美容	
5) 日用品費・介護用品費・被服費等事業費報告	
5. 厨房事業報告	7-8
6. 医務室利用者健康管理報告	8-10
7. リハビリテーション報告	11
8. 生活相談員・介護支援専門員	12-13
9. クラブ活動実績報告	13-16
10. 年間行事実施報告	17
11. 事務費・固定資産物品報告	17
12. 事故報告・ヒヤリ・ハット報告	18
13. 職員研修報告	19-20
14. ボランティア・慰問 受け入れ状況報告	20
15. 消防訓練実施結果	20-21
16. ショートステイ事業報告	21

1. 事業報告（総括）

中長期計画について

社会福祉法人福陽会の理念を職員全員が周知し、実践していくことで、入所者様とご家族に信頼される施設として実績を重ねる努力を続けました。

中期基本方針について

現在実施していることを委員会や会議等で常に検証し、より優れたサービス体制の構築へ向けてチームケアを進めています。

(1) サービス向上への取り組みの実績としては、全職員がアドボケイトとしての力を持つよう、利用者様とのコミュニケーションを多く図り、サービスに繋げていけるようになっていきます。各委員会についても積極的に意見交換を行い、業務の見直しと改善・質の高いサービス提供を行う仕組みが定着してきました。

地域交流として「日の出町ハートワークフェア」に参加したことにより事業者間の繋がりができ、日の出幼稚園の園児との交流会を開催することができました。利用者様からも好評価を受け、今後も継続して実施していきます。

ボランティア交流会も昨年度に続き開催することが出来ました。今後も地域交流促進と積極的なボランティア受け入れを行いながら、季節感のある行事を計画・実施していきます。

災害対策については、高齢者施設災害防止講習会、防災対策支援事業研修会への参加や水防災害マニュアルの作成を行いました。今後も訓練計画に沿って訓練を実施し、防災意識を高めていきます。

(2) 組織強化への取り組みでは、新たなユニットリーダーの育成を行いながら適材適所の人員配置、業務の検討、見直しを行いました。

(3) 人材育成・確保への取り組みとして、外部研修や内部研修を充実させ、人材の育成に努めました。また、職員との面談を実施、新人職員とのエルダー・メンター面談も実施しました。新人育成効果表の見直しを行いました。

(4) 経営基盤充実への取り組みについては、三施設利用者情報交換会や日の出町・あきる野市・福生市の事業者連絡会に参加し、様々な情報を把握できるようにすると共に、定期的な訪問や連絡を行いながら、情報収集に努め連携を図ってきました。

基本目標について

福陽会の基本理念については、毎日の唱和を継続するとともに統括施設長に来園いただき、職員に対し法人設立当時の思いや理念について語っていただくことで福陽会の職員としての意識の向上を図りました。また、新入職者については、統括施設長の書かれた文章から福陽会理念についての説明を行うことで基本理念の浸透につとめた結果、新人であっても理念に共感でき、それを基としてケアを行っていく事ができる者が増えています。

基本方針について

加齢に伴って生ずる心身の変化に起因する疾病等により要介護状態となり、入浴、排泄、食事等の介護、機能訓練並びに看護及び療養上の管理、その他の医療を要する方等について、これらの利用者様が尊厳を保持し、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことが出来るよう、施設顧問医師指導の下、各部署連携し必要な介護サービスを提供し、地域福祉の増進を図ることを目的として事業を行いました。

(1) 利用者様の健康状態、身体状況を充分考慮に入れ、各部署の職員による情報の共有と連絡、相談を密に行い、職員1人1人が利用者様を良く観察し、介助が必要な利用者様が最低限度の援助で快適な生活が送れるための環境作りに努めました。

(2) 地域社会との交流を深めるため、民生委員やボランティア、地元老人会との交流会を開催し、情報の交換や地域のニーズ及び利用者家族様の動向、希望等を聞き施設運営に反映させました。

(3) 利用者様が施設行事に気軽に参加できるよう、地元ボランティアに協力をお願いし、日常生活に変化と季節感が持てるような施設での雰囲気作り、催し物を工夫し開催しました。

29年度の重点目標について

平成 29 年度の介護保険制度形成に対応すべく、より堅固な体制を整えるよう創意工夫を行いました。高齢福祉の厳しい現状においても安定した経営基盤で、利用者のニーズに合った、より良いサービス提供と良質な人材の確保・安定を図り、今後を見据えた施設運営に努めました。統括施設長の思い（法人理念）である「こころある介護」を職員全員が継承し、一丸となって良質なサービスを提供して行けるように努めました。重度化する利用者様の健康的な生活を維持し QOL を高めるため、施設顧問医師の指導の下、他職種協働にて支援を行いました。

稼働率は、特養 98.2%、ショートステイ 64.36%、平均介護度 4.1 となりました。

今後は、職員全員が常に稼働率を意識し、さらに幅広い地域からの利用者獲得が出来るよう、西多摩特養ガイドの活用や居宅支援事業所への営業活動を強化し、ケアマネジャーや相談員との繋がり・連携を密に行っていきます。

また、特養入所を見据えたショートステイの利用者の受け入れを推進していき、安定した稼働率を維持していきます。

3 大行事をはじめ、毎月の外出レクやユニットレク、クラブ活動を通じ、季節感のある行事の提供を行ってきました。新たな試みとして、日の出幼稚園の園児との交流会を開催し、好評をいただきました。

また、地域住民やボランティア、ご家族様に向け「施設の食事を知ろう会」を実施し、利用者様が食べているお食事を召し上がって頂く機会を設けることが出来ました。今後も様々な企画を立案し、実施していきたいと思います。

施設顧問医師を中心に多職種連携を図りながら利用者様、ご家族様のご意向を受け、看取り介護をさせて頂きました。「安心してお任せすることが出来ました。ここで良かった。」等感謝のお言葉を頂き、職員一同励みになりました。

今後も専門職やユニットリーダーを中心に福陽会の理念を具現化できるように経営基盤をしっかりと固めつつ「こころある介護」を実践し、「利用者も職員も笑顔あふれる施設」を目指していきます。

2. 職 員 構 成 3月31日現在

担当職	職 名	職員	非常勤
施設長		1	
顧問医師			1
産業医			1
副施設長		1	
事務長		1	
事務員		1	2
生活相談員		1(1)	2(2)
介護支援専門員		1(1)	2(2)
介護職員		27	27
医務	医 師		3
	看護リーダー	1	
	看護職員	4	2
機能訓練指導員	機能訓練指導員	1	
	P T		1
厨房	管理栄養士	1	
	調理員	4	5
保守管理・宿直	介助員	1	5

* 兼務職員は主たる職務に記載し、兼務している職務では () 内に記載

人件費実績：323,370,574 円

福利厚生費実績：3,525,293 円

3. 会議・懇談会・委員会開催状況報告書

委員会

昨年度同様、第1～第4火曜日に委員会を振り分け会議を実施した。職員一人一人も担当の委員会に出席し、責任を持った事で意見も多く挙がってきている。他部署が集まり会議を行う事で、業務改善、ケアの質の向上に繋がっている。

1) 苦情・拘束委員会

毎月、意見箱を確認し、また、直接聞いた苦情に関して話し合い、改善に努めた。

改善に努めた事により、職員の意識向上に繋がった。

身体拘束に関しては今年度も一度も行わず対応した。会議や内部研修を通して、全職員が身体拘束に関する知識を周知した。

2) 行事計画委員会

施設全体でイベントに取り組む姿勢が強まり、成果を上げるよう行事に力を注ぐことが出来た。

次年度も成果を生かし盛り立て、多部署連携を図り施設全体で行事に取り組んでいくようにする。

3) 虐待防止委員会

虐待についての話し合いを他部署も交え行った。対応の仕方を考えながら介助を行っていかねば虐待になりかねない、と言うことを念頭に置き、支援するよう努めた。

4ヶ月に1度「虐待の芽アンケート」を実施し、職員自身が日々のケアに対する対応を確認出来るようにした。今後も接遇の研修や定期的なアンケートを実施し、虐待防止に努める。

4) 事故防止委員会

各部署の職員が連携を図り、ご利用様が安全に生活を送れるよう配慮を行い、事故・アクシデントが発生しないよう事故防止に努めた。

毎月各フロア担当者が、フロア内で発生した事故・ヒヤリハットの件数時間の集計を行い、事例を一件挙げ、状況・原因・対策の検討をし、再発事故防止に向けて協議を行った。

5) 研修委員会

今年度の目標である体験型の研修を行う事が出来た。

職員に食事形態の違いを理解し食事介助に活かしてもらう様、ペースト食、極刻み食、刻み食を食べ比べしてもらった。食感を体験出来て良かった等の声が職員から多く聞かれた。

研修の様子を写真や映像に収め、講師の職員のスキルアップに繋げる目標は写真を収めるに留まった。検討課題として次年度に持ち越す事になった。

6) 褥瘡予防委員会

毎月1回月初めに褥瘡委員会を開催し各部署からの選任された委員会メンバーにて褥瘡の発生や軽減、高リスクについて対応の統一と状態の検討をおこなった。

体調不良に伴い褥瘡が悪化したり、栄養状態の変化や日々の生活上の問題点での悪化というものもあった。必要時、早期に足浴を行う、清潔を保持できるよう洗浄を増やす等積極的に行う事で悪化を防ぐ等改善もみられていたがフロア職員、他部署全員に褥瘡発生者、高リスク者の連絡が行き届いていなかったことも多く早い対応と持続した対応ができず悪化してしまった例もあった。

今後は連絡ルートをクリアにし対応の統一化を図っていく。

7) 感染症委員会

感染症予防に対し活動計画を立てていたが、本年度は感染症の発症があった。

発症後に検討を行い蔓延防止に努め、拡大には至らなかった。この為、感染症発症時の対応については適切な対応が行なえたと考えるが、発症に至った経緯を含め知識・技術の向上、対応の強化に努めて次年度の活動計画に繋げていきたいと考える。

8) 衛生委員会

職員の定期健康診断を実施した。また、産業医の指導のもと労働者の健康管理の維持に努めた。

衛生管理者等による施設内巡回を実施し、職員が仕事しやすい環境整備に努めた。

ストレスチェック制度の施行に伴い、職員のストレスチェックを実施し、従業員のメンタルヘルス不調を未然に防止した。

9) 排泄委員会

排泄委員会にて、それぞれのユニットでの排泄に関する取り組みを発表し、意見交換を行った。それぞれの利用者様の状態に合わせた対応を心掛け、リハビリパンツから布パンツへ移行したり、極力トイレで排泄が行えるよう努めた。また、排泄交換時、オムツや使用した清拭を、利用者様1人ずつ居室にて小分けに袋に処理し、臭気や衛生面の改善を行った。

10) 業務検討委員会

各部署が集まり、業務の改善に向け、話し合いを行ってきた。他部署で関わり、夜間のオンコール対応や、利用者様が外食される際の対応などの見直しを行い、マニュアルの作成を行い、全職員が同じ対応が行えるように努めた。

11) 栄養会議

お食事に関するイベントごとの確認や諸連絡の伝達を実施した。

毎月の体重測定や、採血等の結果についてピックアップし、低栄養のリスクがある利用者様のケアについての話し合いを実施した。希望おやつの日を設定するだけでなく、献立についても新たな取り組みを行い、食事満足度の向上に努めた。

12) リーダー会議

各ユニットの問題点や介護課全体の問題点、取り組みたい事などを議題に出して話し合った。他ユニットの状況を知る事で、お互い刺激し合い、学び合えた。また、新たにユニットリーダーとなった者もあり、ユニットリーダーとしてあるべき姿について再確認を行い、質の向上に努めた。

13) 入浴委員会

入浴介助中の事故を防ぐ為、スロープ・チェアーからの移乗方法を見直した。移動距離を短く、そして、必ず職員2名対応する事を徹底した。それにより、入浴中の事故はなく、安全、快適な入浴をして頂けるように努めた。また、環境面に関しても、排水溝の汚れが目立っていた為、排水溝や、入浴後の掃除も見直し、衛生面に関しても強化した。

14) ボランティア委員会

ボランティアの新規受け入れや連絡調整を行い、利用者様に楽しんで頂ける時間を多く設ける事ができた。29年度は4名の方に新規のボランティア登録をして頂いた。目標としていた、近隣幼稚園との交流を行った。幼稚園児を見て、利用者様達は「可愛い」と涙を流し喜ばれていた。また、普段からお世話になっているボランティアの方々と施設職員の交流会を行った。交流会を行う事で、ボランティア同士、ボランティアと施設職員がより良い関係づくりに繋がった。その他、「施設の食事を知ろう」という会を実施し、地域の方や利用者様のご家族様に施設を知って頂く会を設けた。それにより、施設がより地域に近い存在となったと考える。今後も実施していく。

会議費実績：0円

4. 処 遇 報 告

1) 2F 事業報告・活動報告

(1) あやめユニット

出退勤時の挨拶、コミュニケーションをとることを心掛け、利用者様との信頼関係が構築できるよう努めた。結果、利用者様への信頼関係・理解を深める事が出来たと思う。より良好な関係を築いて行けるよう、これからも継続して行っていききたいと思う。

昼食前にリハビリ体操・口腔体操、テレビのラジオ体操を見ながら一緒に体操を行った。レクリエーションとしてカラオケも行った。次年度はさらに生活が活性化されるよう、一緒に料理ができるようなレクリエーションをしていききたいと思う。

秋に羽村動物園への外出を計画し、実行した。普段は見られないような表情も見ることができ、職員にとってもやりがいのある仕事であった。次年度以降も企画し続けていききたいと思う。

(2) さゆりユニット

利用者様やご家族に笑顔で挨拶を行い、丁寧な対応に努めた。

利用者様とコミュニケーションをとり、要望をしっかりと聞きながら個々のケアに努めた。

食事のメニューをホワイトボードに大きく記入し、誰でも分かるようにした。今後も利用者様からの要望に耳を傾け対応していききたい。

利用者様の情報にしっかりと目を通し、対応するよう努めた。今後も職員間で情報を共有化し、スムーズなケアが出来るようにしていきたい。

退所時の忘れ物や紛失がないよう、チェックシートを作成した。洗濯物を干す際はハンガーの色分けを行い、衣類の間違いがないようにした。今後も紛失や忘れ物がないよう工夫していききたい。

(3) さくらユニット

利用者様に活気ある生活を送ってもらえるようカレンダー作成や、童謡クラブ、音楽クラブに多く参加して頂いた。また体操や生活リハビリ等も多く声掛けし参加を促した。

職員間の情報共有と連携を図る為、ユニット内ミーティングを実施した。また夜勤者から日勤者、日勤者から夜勤者の引き継ぎを決められた時間に行う様徹底した。

(4) みもぎユニット

ゆったりとした生活を心掛け、利用者の方と少しでも多く接し、声掛けを増やすことで笑顔がよく見られる生活を提供出来た。

利用者の方に寄り添うケアに努めることが出来た。ニーズに沿う対応に関しては、不十分な点もあり課題もあるが、徐々に対応できるようになってきている。

レクリエーションなどの余暇活動があまり行えていなかった。次年度に向けて余暇活動に力を注ぐ。

職員間の連携が取れ、互いに相談を行い情報の共有が行え笑顔にてケアに努めている。次年度はより一層職員が働きやすい環境の整備に努めていく。

2) 3F 事業報告・活動報告

(1) すみれユニット

利用者様が楽しく明るく生活して頂けるよう、天気の良い日はテラスへ出てレクリエーションや体操を行ったり、おやつを食べたりすることができた。また天気の悪い日や気候を考えホールにてカラオケやボーリング・輪投げを行い利用者様からも喜びの声も多く聞かれた。

利用者様の状態を把握するよう、気付いたことや気になること、また問題点などを細かに他職種に報告する事ができた。その事でより早く問題点を解決することができたと思う。また職員同士での状態報告を朝の申し送り時やノートに記載し、全員が把握できるよう努めた。

毎日ホールにて昼食前のリハビリ体操を無理なく行うことができた。また模造紙に歌の歌詞を書き、リハビリ体操後に歌を唄ったり、早口言葉などちょっとしたレクリエーションを取り入れ利用者様に苦痛なく参加して頂けるよう工夫を行った。「今日は体操ありますか」と毎日聞かれる方もおられた。今後も毎日の体操を実施し、楽しんで参加して頂けるようなレクリエーションも取り入れて行けるよう努める。

(2) つばきユニット

毎日リハビリ体操を行い、利用者様の残存機能維持に努めました。あまり手足を動かさない利用者様も、曲に合わせて動かされるときもあり笑顔も見られ、毎日欠かさず続けて良かったと思う。

活気ある生活をして頂けるようデッキに出て日光浴を行い、気分転換が図れるよう努めました。利用者様と対話する時間も増え、コミュニケーションが多く取れたことで、利用者様の小さな変化にも気付くことができました。職員同士、声掛けや対話を多くし、利用者様1人1人に合った支援が出来るよう、今後も努めていきます。

(3) つつじユニット

利用者様が毎日お元気で充実した生活を送れるよう、明るく楽しいユニットづくりを目指した。

一人ひとりの個性や身体機能を尊重しながら、出来る事はご自分で行って頂き、過剰介護にならないよう残存機能を生かすケアが出来た。

季節に合わせた貼り絵やレクリエーションを行い、一年を通してユニット内を明るい雰囲気につつじが出来た。

職員の笑顔を絶やさず、ご家族に対しても挨拶をしっかりと行い、利用者様、ご家族共に信頼関係を構築することが出来た。

(4) あじさいユニット

各行事やフロアレクリエーションに参加され楽しそうにされていた。また花見ドライブでは季節を感じてきれいだったと利用者様も嬉しそうにされていた。

利用者様とのコミュニケーションを多く取り利用者様の訴えを傾聴して信頼関係を深められたと思う。

職員間の連絡が出来ていないことがあったので連絡帳を使用し職員に周知できるように心がけた。次年度も継続して行っていく。

3) 4F 事業報告・活動報告

(1) ひまわりユニット

ご利用者様お一人お一人を大切にし明るいユニットを構築する事が出来た。

手話を練習し、行事で「フラワーガールズ」とグループ名を決め披露した。ご利用者様ご家族様にも喜んで頂き、多くの笑顔を引き出し生活を楽しんで頂きました。

職員間では毎朝の申し送り時にご利用者様のケアについて話し合い、全員で同一の質の高いケアを行った。チームワークを密にしご利用者様中心のケアを行うように努めた。

(2) コスモスユニット

ユニットケアの向上を目指し、利用者様のニーズに耳を傾け、利用者様に合わせた対応を行った。それに伴いプライバシー保護や倫理についても徹底を行った。

利用者様の誤嚥防止、食事摂取量向上の為、食事前に口腔体操を行った。また、手話や手芸等のレクリエーションも多く取り入れ、利用者様に喜んで頂いた。

連絡や報告についても連絡帳の使用強化と口頭での二重の申し送りにより、職員全員が同じ情報を共有できた。

4) 移動理美容

理容が第2・4月曜日の月2回、美容が第1金曜日の月1回来て頂いている。利用者様のご希望によって利用して頂いている。ご家族様、そのご家族様がどの位の頻度で利用されたいか、どの位の長さでカットされたいか等の希望を理容師、美容師に伝え、ご希望に沿うように行えた。

5) 日用品費・介護用品費・被服費等事業費報告

勘定科目	内容	金額	勘定科目	内容	金額
介護用品費	オムツ	10,040,547	日用品費	トイレットペーパー、ティッシュペーパー	274,655
	タオル	9,517		ブラシ	184,165
				煎茶	161,956
				その他	693,918
	小計	10,050,064		小計	1,314,694
被服費	寝具設備	3,961,183			
	小計	3,961,183			
			合計	15,325,941	

○給食費実績：26,112,625円 ○介護用品費実績：10,050,064円 ○医薬品費実績：2,770,773円
 ○日用品費実績：1,314,694円 ○被服費実績：3,961,183円 ○消耗器具備品費実績：390,889円
 ○保健衛生費実績：1,185,580円 ○車輛費実績：471,535円 ○水道光熱費実績：19,965,355円

5. 厨房事業報告

《衛生管理・食事提供》

手指の洗浄・消毒や衣服の清潔保持、厨房内の衛生管理を確実に実施した。体調不良時や感染症発生時に備えた連絡経路等のマニュアルや調理過程のチェック体制等の周知も徹底し、安全なお食事を利用者様に提供できる体制づくりに努めた。

衛生マニュアルに従った業務、非加熱食材の取扱方法、加熱温度と時間の徹底を行い、安全なお食事を利用者様に提供することが出来た。

全員で掃除をする時間としてクリーンタイムを導入し、厨房衛生に対する意識の向上を図った。フロアラウンドの強化や嗜好調査を行い、利用者様のニーズに応える献立の作成と調理法の工夫を行った。

利用者様の希望に沿うように希望おやつの日を設定し喫食満足度の向上に努めた。

《行事食・麺の日・出前の日・喫茶の日・誕生日・希望おやつ会実施内容》

季節の行事食：月1回(正月は三が日)実施。カード装飾や、盛り付けに工夫を凝らした。行事食は利用者様に特に喜んで頂くことが出来た。今後もバリエーションを増やし、更に利用者様のニーズに応えるようにしていく。また冬の時期には寄せ鍋とおでんを提供し、利用者様から身も心も温まった等の意見を頂き、喜んで頂いた。

麺の日：うどんやそば、ラーメン、冷やし中華やそうめん、スパゲティ、焼きそば等を実施した。

出前の日：鰻⇒形態に合わせて刻んで提供した。寿司⇒原則として米飯の方は握り、粥の方には刺身と粥、極菜・ペーストの方は細かく刻んで提供した。生ものが嫌いな方には、助六での提供も行った。

喫茶の日：毎月第4日曜日に、サックスボランティアの演奏と共にデザートとコーヒーを提供した。

デザートは毎回工夫を凝らし、時には利用者様に手伝っていただきデコレーション等も楽しむことが出来た。

誕生日会：毎月第3水曜日に実施、誕生月の利用者様に事前に招待状をお渡しし、当日は手作りケーキとコーヒー、歌や演奏等を楽しんでいただくことが出来た。

希望おやつ：利用者様から食べたいおやつを伺い提供を行った。ユニットで利用者様に手伝っていただきながら作成した事もあり、大変喜ばれていた。

4月	・ガトーショコラ ・シフォンケーキ(チョコ)	9月	・大学芋 ・ティラミス
5月	・シフォンケーキ(紅茶)	10月	・肉まん ・プリン(栗風味)
6月	・ねりきり ・スイートポテト	11月	・きんつば ・プリン(抹茶)
7月	・ねりきり	2月	・シフォンケーキ ・プリン
8月	・すいか風ゼリー ・ねりきり	3月	・プリン

《代替食実施状況》

青魚/魚/鶏/肉/納豆/牛乳/刺激物/カレー/麺/パンその他	他の料理で対応
井別盛り、あんかけ別盛り、主食おにぎり	盛り付け時に対応

《給食懇談会・厨房会議・嗜好調査アンケート結果》

毎月各ユニットにて給食懇談会を実施し、食事についての意見・要望や、食べやすさ(形状・硬さ等)についてのご意見をいただいた。

厨房会議を毎月必ず行い、その月に発生した取り組み課題をまとめ、部署全体での問題解決に努めた。業務の検討や反省・意見交換を行い、意識の統一を図った。また、給食懇談会の内容も報告し、業務改善の参考とした。

調理ノートの作成を行い、調理法の統一を図り、誰が調理しても同じ出来栄えになるように努めた。

《療養食・栄養ケアマネジメント実施状況》

医師の指示のもと、療養食が必要な利用者様に提供を行った。献立や調理を工夫し、なるべく常食と差異を感じずに、おいしくお食事が提供できるよう努めた。

多職種と連携して利用者様ひとりひとりの状態を把握し、適切にスクリーニング、アセスメント、モニタリングを実施することが出来た。低体重の利用者様数は、引き続き前年度と比べ改善がみられた。

6. 医務室利用者健康管理報告

【年間目標】

(1) 利用者様の日々の状態観察や関わりを持ち、変化や異常に気づき利用者様が過ごしやすい環境の整備に努める。

実施方法と内容

- ①必要に応じて観察（体温・脈拍・呼吸・血圧・S p o₂等の測定）を行い異常の早期発見に努める。状態変化時・新入所時・退院時などの状況変化時も定期的に観察を行い異常の早期発見に努める。
- ②医務室内での連絡・報告・相談を密にとり身体的・精神的変化に留意する。
- ③他職種との連携を図り、利用者さまが安定し過ごしやすい生活を維持できるように変化に注意、観察し以上の早期発見に努める。
- ④高齢者の身体的・精神的変化を理解し、起こりやすい障害や室病の悪化を未然に防げるよう観察、早期発見に努める。

年間目標(1)に対し、担当看護師や、担当不在時のフォロー看護師が情報を共有する事で状態変化時の対応が適切に行えたと考える。また、日々利用者様との関わりを持つことで変化に気づき早期発見に繋がったと考える。この為、次年度も利用者様との関わりを大切にし異常の早期発見に努めて行きたいと思う。また、他職種との連携を図り情報の共通の認識を行う事で看護師が関わっていない時間帯の情報収集を行なう事ができ適切な対応の検討に繋げることが出来たと考えるが、今年度は検討事項や共通認識の部分で不足している点があった。今後も担当看護師が中心となり他職種との連携を密にとる必要があると考える。

(2) 日々の業務終了後に日々業務内容、処置、物品補充を振り返る事で業務の円滑を図ると共に業務の見落としを予防する。

実施方法と内容

- ①要物品補充を業務終了後に必ず行う事で、次に使用するスタッフが円滑に業務を遂行できるように努める。
- ②業務内容、行った処置などをその日に振り返り、記録やスタッフ間で共有する事で、業務の見落としを予防することに努める。

年間目標(2)に対して、目標に上げ実践を促して行ったがまだ業務終了後の物品の確認に対しては意識が低い状態がみられるので、次年度も継続実施し円滑な業務が行なえるように意識付けを行う。業務内容に対しての伝達事項は適切に行える状態であると考え。申し送りノートの使用や口頭での伝達等、眼や耳など記憶に残る方法を考え今後も統一した看護の提供が行なえるように努めて行く。

通院・入院履歴

	通院	入院	退院
4月	9名	2名	0名
5月	7名	0名	0名
6月	6名	5名	1名
7月	6名	3名	1名
8月	3名	1名	0名
9月	8名	2名	0名
10月	7名	3名	2名
11月	9名	1名	1名
12月	5名	3名	1名
1月	9名	3名	1名
2月	11名	2名	0名
3月	9名	2名	2名
	年間通院者数 89名	年間入院者数 27名	年間退院者数 13名

3月31日現在の医療ケア介入必要者

胃瘻からの経管栄養実施者	7名
点滴施行者	3名
血糖測定者	0名
在宅酸素使用者数	0名
常時、口腔・鼻腔内からの 喀痰吸引が必要となる利用者	1名
褥瘡処置施行者	7名
褥瘡以外の皮膚処理施行者	28名
ターミナルケア対応者	13名
合計	59名

平成29年度死亡退所者

入院先での死亡者	11名
施設内での死亡者	1名
施設内ターミナルケア対応 死亡者	4名
合計	16名

(3) 終末期をその人らしく安らかに迎えられるような援助に努める。

実施内容と方法

- ①苦痛の緩和に努める。
- ②精神的な安定を図る。
- ③定期的なバイタルサインを実施し、医師との連携を図り家族に情報提供を行う。
- ④他職種との連携を図り、食事・水分・排泄・睡眠等の管理を行う。

年間目標 (3) に対し、看護の視点から安らかな生活が送れるように関わりを持つことが出来てきていると考えるが、その人らしい生活については安全に配慮しながら希望に沿ったケアの提供を行うには、今後も他職種と意見を交わし合い実践につなげていく必要があると考える為、次年度も継続していきたいと思う。又、今後も苦痛の緩和を図り他職種が統一したケアが実践できるように助言を行い安楽に過ごせるように努めていく。また、家族との連携をはかり、家族の思いに留意し対応を行っていく。

(4) 感染症発症予防のため活動・指導を行い、蔓延予防に努める。

実施方法と内容

- ①職員の感染症予防に対する知識向上を図るために、感染症委員と連携し適宜 指導・研修を率先して行う。
- ②一処置・手洗いを徹底し、二次感染の予防に努める。
- ③他職種と連携を図り、食事・水分摂取状況を把握し個々に合わせた対応を検討し、摂取できる環境を整え免疫力の維持・向上に努める。
- ④換気・湿度調整などの環境整備を行うことで感染症発症の予防に努める。
- ⑤利用者様の日常生活状況を観察し、感染症発症の兆候の早期発見に努める。
- ⑥医師との連携を図り、簡易キットを使用し感染症の有無の判定を速やかに行い適切な対応を開始できるように努める。
- ⑦感染症発症時は、状況を把握し速やかに対応を実施する。又、他職種へ情報提供し連携を図る。

年間目標 (4) に対して、職員への知識・技術の向上については産業医による指導や感染症委員からの研修が実施されている事や、感染症発症時の速やかな対応が行えている事から向上に繋がっていると考える。今後も産業医の指導内容や感染症研修会にて知識・技術の向上出来るように努めて行く。

今年度は感染症発症が 2 件あり蔓延には至らなかったが、感染経路が明らかになっていないことから今後も職員や面会者の状態把握に努め、感染症予防に努める。

次年度も感染症蔓延の為に知識・技術の更なる向上に努め、他職種連携のもと速やかな対応が実践できるよう情報提供や指導的立場で取り組みを行っていく。

(5) 褥瘡予防に重点をおき、他職種との連携を図り指導を行っていく。

実施方法と内容

- ① 入所時や 3 ヶ月に一度褥瘡アセスメント表を作成しリスクを把握する。また、褥瘡ハイリスク者に対しては、個別の計画表を作成し他職種との連携を図り褥瘡予防に努める。
- ②職員の褥瘡予防に対する知識向上を図るため、適宜 研修・指導を行う。
- ③加齢による身体的変化への意識向上に努め、バリア機能維持に対する取り組みをする。

年間目標 (5) に対し、研修や指導を実践しているが、褥瘡発生者がいるため今後も褥瘡のメカニズムについて指導を行っていく必要があると考える。

又、アセスメントを実施を活用し、他職種に情報提供を行いリスクを把握したうえでケアに努める事が出来るようにすることが必要と考えるため次年度に繋げていく。

体位変換やポジショニングについては除圧に繋がっていない部分がある為、今後も一人一人に合った体位を検討し対応に活かす事で褥瘡予防に努める。

7. リハビリテーション報告

(1) 総括

平成 29 年度リハビリテーションにおいては、安全で無理のない訓練の実施と妥当性のある個別機能訓練計画の策定に重点を置いた。利用者の既往歴・現病歴の把握、事前のバイタルチェック、他職種との連携などにより、安全性を確保した。また、医師、理学療法士の指導の下、利用者の心身の状態、施設での生活におけるニーズなどを考慮し、個別的で実効性のある訓練計画の策定を目指した。

(2) 実施事項

- ② 理学療法士による評価・プログラム作成
- ③ 節可動域訓練
- ④ 基本動作訓練
- ⑤ 筋力訓練
- ⑥ 温熱療法
- ⑥ 体位交換等ワーカーへの指導

(3) 結果

- ・ 関節可動域の維持・拡大
- ・ 基本動作能力の維持・向上
- ・ 疼痛の軽減

リハビリテーションの過程においても大きな成果が得られた。信頼関係の構築と適切なコミュニケーションにより、法人理念に掲げられる利用者様の「個性の尊重」「希望と生き甲斐」に繋げることができた。利用者様の前向きな発言や笑顔、頑張る姿が多く見聞きされるようになった。以下に機能の著明な改善を見た事例について紹介する。

- ・ 外出時車への乗り移りが楽になった例。

立ち上がり訓練やシルバーカーでの歩行訓練を行っているご利用者様について、ご家族との外出の際車への乗り移りが今までより楽にできるようになったと実感されている方がいらっしゃった。能力の向上を実感した事で、居室から食席までの移動もシルバーカーで行いたいと、リハビリへの意欲も更に高まっている。

(4) 課題

リハビリテーションにおける著明な効果はご本人の「やる気」に担う部分が大きいものである。「やる気」という強い意志を持てる利用者様は決して多く存在はしない。しかし、介入等コミュニケーションの構築により、利用者様が積極的に身体を動かしたくなる環境は作れると思われる。この環境作りをしっかりと行いたい。

また、リハビリテーションとは特別な訓練のみを指すものではなく、生活活動すべてに付随できるものである。さらに、リハビリテーションは身体機能の改善のみを目指すだけではなく、個性を尊重したより良い生活（QOL 向上）を目指すものでもある。このような広い枠組みでリハビリテーションを捉え展開していくこと、生活の全ての場面において、リハビリテーションを行う事が可能であり、そうした取り組みの積み重ねがご利用者様の身心の能力維持・拡大に繋がるものとする。

さらには、ワーカーに対して体位交換やポジショニング、シーティング等の指導を行い利用者様に安楽な姿勢が保持出来るようにする。安楽な姿勢により体圧の除圧をし褥瘡の予防を図りたい。

8. 生活相談員・介護支援専門員 事業報告

1、利用者様支援、多職種連携の調整役

福陽会の基本理念である「人がその人らしく生活できる環境づくり」を常に考えながら、各階に相談員を配置して、日頃から利用者様へのご様子や状態確認の声掛けや観察を行い、介護現場職員をはじめ、医務・リハビリ・栄養等各部署、また、ご家族からも利用者様の情報を集めて各部署へ発信し、お一人おひとり利用者様の環境を整えていくよう努めた。生活相談員がユニット内を回り、利用者様へ声掛けや職員から情報ももらい利用者様のご様子を確認して、ご本人のニーズを把握する。その情報を多職種でアプローチできるように調整を行い、解決できるよう支援を行った。また、利用者懇談会を適宜実施して、利用者様の生活への良い点や悩みや要望等の意見を聞く機会を設けた。徐々に各部署の情報の共有の流れや形が整ってきたため、次年度も生活相談員が調整役となり、情報の伝達・共有をうまく行い、利用者様へのチームケアができるように心がけていく。また、医療面でのご利用者様の状態に関するご家族様への連絡は医務より行っており、職種間でより多くの連携の必要性を感じた。今後も『報告・連絡・相談』を多職種間で徹底をして、より良い多職種連携のシステムを作っていく。

2、ご家族、施設間調整

施設と利用者様ご家族との橋渡し役として利用者様のご様子を都度お伝えし、ご家族との関係調整役として動いたことで、それぞれのご家族より安心して利用者様を任せていただけた。また、信頼関係も築けており施設行事に参加して下さるご家族や、ご本人の状態変化時等には面会に来て下さり、病院等への付き添いにも行って下さるご家族が大多数おり、ご家族と協力してご本人の生活を支援できた。今後もご家族への連絡等をしっかり行い、安心していただけるよう努めていく。医療面でのご家族への連絡は医務より行う体制をとっているため、今後も細かく連携を行っていく。

3、利用者様の入所前、入所時の支援について

入所を希望する方が相談にいらした時に、その方にとって当施設が提供するサービスを本当に必要としている方なのかどうか、まずその人のニーズは何かを見極めて情報提供を行った。また、利用者様入所時にはご本人、ご家族より聞き取りを行い、これまでの生活歴、趣味、嗜好等々ご本人の情報を収集して各部署へ共有してケアができるようにした。

利用者様が施設へ入所する前の事前面接を近隣の場合は徐々に行うことができおり、今後も可能な限り、相談員と多職種にて事前面接を実施していき、入所前の情報共有を進めていく。

4、介護職員へのスーパーバイズについて

各ユニットリーダーの現場指導とは別に各フロアの相談員が職員のスーパーバイザーとなり、フロアをラウンドする際等に利用者様に対するケアや対人への態度等の確認を行い、指導、評価を行った。職員の職場環境の変化や日頃の様子等にも目を向けて、ストレスやメンタルの面での職員の相談役としても担えた。

5、営業について

営業活動を通して、近隣の事業所との関係性も強まっているように感じる。また『西多摩特養ガイド』の設立もあり、都区内からの問い合わせや見学、申し込みも増えてきて、対応させていただいている。資料請求の方に対しては、分かりやすいように料金表に一言付け加えたり、施設見学などは随時承り、施設をアピールすることに努めた。その結果、「色々なところを問い合わせたけれど、ここまでやってくれた施設はなかった。」等の声をご家族よりいただき、好評な様子だった。今後もひと手間を惜しまずに、ご家族に寄り添った相談を行って、施設をアピールしていきたい。

① 入所時面接について

入所時に面接を行い、生活環境を聞き取り把握することで、リロケーションダメージを最小限に抑え、施設での生活に移行できるように、支援を続けた。24時間シート作成も継続して行い、注意点などを指摘し、他職種に発信して情報を共有出来るように努め、新規ご利用者様の支援をしていた。入所時に把握しきれない事もあるため、入所後も継続して情報収集を行い、その人にあった支援を出来るように努めた。

② ケアプラン作成について

聞き取りを行った情報を元に、施設サービス計画書を暫定に作成し、ご家族・ご本人に説明・同意をしていただいた。そして1か月後に初回カンファレンスを開催し、その人らしい生活を送る

ことが出来るよう、新規プランを作成した。またADLの変化が著明に表れた時には、緊急カンファレンスを開催し、状態に応じたプランを作成すると共に支援できるように努めた。また、目標に関してはより具体的な言葉で、その利用者様のことを考えながら作成するよう努めた。

新規プランに関しては、ADLに変化がなかった場合には3か月、更新に関しては6か月と設定。ADLに変化があった場合には期間は3か月とするも、その都度様子を観察し作成した。

ターミナルケアに入った方に関しては、状況把握に努め3か月に1度の見直しを行い、計画書を作成することになった。

③ モニタリングについて

1か月ごとに支援経過としてモニタリングを行い、ご利用者様の状態を把握していた。介護職員は『ちょうじゅ』の中にある支援経過に記入をしている。また介護支援専門員は『ちょうじゅ』のモニタリング用紙に3か月後・6か月後の2回行い、項目に合わせて観察事項を記入して、継続するか変更するかの資料とした。またターミナルケアの方については、3か月ごとのモニタリングを行い、より細かに観察を行っていった。

④ ケース会議について

毎月第2水曜日・第3火曜日・第4火曜日の午後に開催予定とし、ケース会議を行った。職種間調整が難しい場合には、介護支援専門員による聞き取りを行ったが、基本的には調整をして、ケース会議を開催。職種間の情報共有にて、利用者様の状況を把握。プラン作成に繋げた。またケース会議のコーディネート・進行して、各職種の専門性を尊重するようにまとめるよう努めた。今後も多職種で情報を共有して、ケアに繋げていきたい。

⑤ 介護職員へのスーパービジョンの展開

施設サービス計画書についての内部研修や、モニタリング時に介護職員に対し、施設サービス計画書の必要性についてスーパービジョンを展開した。記録の書き方や観察の注意点などを都度介護職員に話をしていき、利用者のニーズに沿えるように注意を払っていった。今後も引き続きスーパービジョンの展開を図り、意識を向上していくよう努めていきたい。

9. クラブ活動実績報告

① クラブ活動について

出来るだけ多くの方に参加していただけるよう声掛けに努め、楽しいひと時を過ごしていただけたと思う。特養入所の利用者だけではなく、ショートステイの利用者の方にも、楽しい時間を過ごしていただけるよう努めた。

趣味・嗜好を継続して行えるよう様々な状況を考慮し、利用者の希望に出来るだけ添うよう努めた。又、ご自身の得意とする力を発揮していただき、自信を持って積極的に参加していただけるよう支援した。参加してみたいと興味を持った活動には参加していただき、新たな楽しみを感じていただけるよう努めた。クラブ活動に参加することで、季節や環境の変化を感じ、他者との交流を図りながら楽しい時間を過ごしていただけるよう努めた。

継続してクラブ活動に参加されている方は、活動日が楽しみと言われ、ほぼ満足していただけたように思う。

② クラブ活動名と講師名

クラブ名	講師名
華道	根守 和子先生
茶道	片岡 明美先生・お弟子様 2名
書道	石井 亮子先生
手芸	福田先生 他 2名
陶芸	岡部 貴久子先生 他 2名
音楽	澤田 康次先生
童謡	谷津 恵理子先生

華道クラブ活動報告						
活動回数	21回	参加延人数	412名	平均参加人数	21名	担当：井上
【活動報告】						
1. 第2・第4金曜日に活動						
2. 季節ごとに咲く花を楽しみながら季節感を感じていただけた。						
3. 活動を通して利用者間での助け合いや、他の方の生けた作品を見ながら交流をもつことが出来た。 又、先生にご指導いただきながら先生とのコミュニケーションを図る事が出来た。						
4. 施設の文化祭や地域の文化祭に出店していただく事で喜びと励みを感じていただけたと思う。						
【月別活動報告】						
月	内容		月	内容		
4月	季節の花を生ける		10月	季節の花・施設の文化祭用の作品		
5月	季節の生け花・フラワーアレンジメント		11月	地域の文化祭に出品・季節の花を生ける		
6月	季節の花を生ける		12月	フラワーアレンジメント・お正月用生け花		
7月	〃		1月	季節の花を生ける		
8月	活動無し		2月	〃		
9月	季節の花を生ける		3月	〃		
職員担当フロア：3F西						

茶道クラブ活動報告						
活動回数	21回	参加延人数	253名	平均参加人数	12名	担当：柴田
【活動報告】						
1. 第2・第4水曜日に活動						
2. 先生のご指導のもと、参加者がお手前をし、お抹茶の味と、香りを楽しんでいただけた。 お手前で次の段階に進める方は工程を増やして行った。						
3. お茶と季節感のある和菓子をいただきながら、和やかで穏やかな時間を過ごしていただく事が出来た。						
【月別活動報告】						
月	内容		月	内容		
4月	先生のご指導のもとお手前をする		10月	先生のご指導のもとお手前をする		
5月	〃		11月	〃		
6月	〃		12月	〃		
7月	〃		1月	〃		
8月	〃		2月	〃		
9月	〃		3月	〃		
職員担当フロア：3F東						

書道クラブ活動報告						
活動回数	24回	参加延人数	299名	平均参加人数	12名	担当：清水
【活動報告】						
1. 第1・第3土曜日に活動						
2. 清書をした作品を参加者に見ていただき、前回の清書した作品との講評を行いました。徐々に上達される喜びと、励ましの言葉を掛け合いながら交流を図ることが出来た。						
3. 施設と地域の文化祭に出品し外部の方に見ていただく事で、今後の喜びと励みになった。						

【月別活動報告】			
月	内容	月	内容
4月	お手本をもとに前回の課題練習	10月	施設・地域の文化祭の作品練習・仕上げ
5月	お手本をもとに前回の課題練習・清書	11月	うちわと写真撮影・新しい課題の練習
6月	課題の清書・合評会	12月	新しいお手本をもとに練習・清書
7月	新しいお手本をもとに練習・清書	1月	新しいお手本をもとに練習・清書
8月	うちわに書くための練習	2月	仕上げの清書・合評会
9月	うちわに書くための練習	3月	好きな事態を選んでの練習

職員担当フロア：2F東

手芸クラブ活動報告						
活動回数	1回	参加延人数	20名	平均参加人数	20名	担当：井上
【活動報告】						
1. 年3回の活動予定でしたが、先生の都合により活動休止となりました。						
2. 手芸材料を使用して、個性豊かな作品作りを楽しんでいただけた。						
3. 参加者と交流を図りながら、手作り作品の完成に満足感を感じる事が出来た。						
【月別活動報告】						
月	内容			月	内容	
4月	活動なし			10月	ひまわりの貼り絵	
5月	〃			11月	活動なし	
6月	〃			12月	〃	
7月	〃			1月	〃	
8月	〃			2月	〃	
9月	〃			3月	〃	

職員担当フロア：4階

陶芸クラブ活動報告						
活動回数	5回	参加延人数	102名	平均参加人数	20名	担当：中嶋
【活動報告】						
1・不定期 1回/月の予定でしたが施設の感染対応と、先生の体調不良により活動休止となりました。						
2・粘土に触れ土の感触を感じながら、個性豊かな作品を作成することが出来た。						
3・先生・参加者と交流を取りながら、手作り作品の完成に満足感を感じる事が出来た。						
【月別活動報告】						
月	内容			月	内容	
4月	活動なし			10月	小鉢（薬味入れ）の作成	
5月	〃			11月	活動なし	
6月	フリーカップの作成			12月	〃	
7月	葉っぱを押し当てて作るお皿の作成			1月	〃	
8月	小さな花器と剣山の作成			2月	〃	
9月	文化祭バザー用のお皿その他の作成			3月	〃	

職員担当フロア：4F

音楽クラブ活動報告						
活動回数	20回	参加延人数	641名	平均参加人数	32名	担当：清水・井上
【活動報告】						
1. 土曜日午後 1～2回/月						
2. 発声練習で、大きな声を出す事により、腹筋や口腔体操にもなり、自然に声を出すことが出来た。						
3. 馴染みの有る曲や、初めて唄う曲・懐かしい曲等、様々な思い出の有る歌を皆さんと楽しく歌う事が出来た。						
【月別活動報告】						
月	内容		月	内容		
4月	発声練習・新曲の練習・前曲の復習		10月	発声練習・今までの課題曲の復習		
5月	発声練習・新曲の練習・今までの課題曲のリクエスト曲		11月	発声練習・今までの課題曲の復習		
6月	発声練習・今までの課題曲の復習		12月	発声練習・今までの課題曲の復習		
7月	発声練習・今までの課題曲の復習		1月	発声練習・今までの課題曲の復習		
8月	発声練習・新曲の練習・前曲の復習		2月	発声練習・今までの課題曲の復習		
9月	発声練習・今までの課題曲の復習		3月	発声練習・今までの課題曲の復習		
職員担当フロア：2F西						

童謡クラブ活動報告						
活動回数	20回	参加延人数	354名	平均参加人数	17名	担当：萩原
【活動報告】						
1. 第1・第3金曜日に活動						
2. ピアノ講師によるピアノ演奏で、童謡を中心とした歌を唄った。						
3. 良く唄った童謡や季節を感じていただく童謡等、ピアノの演奏で楽しい時間を過ごしていただけた。						
【月別活動報告】						
月	内容		月	内容		
4月	季節感を出して、春の歌を唄う		10月	季節の曲の歌を唄う		
5月	子供の日の歌		11月	秋の歌を中心に唄う		
6月	初夏にちなんだ季節の歌を唄う		12月	クリスマス・お正月を中心とした曲の歌		
7月	季節の歌を唄う		1月	懐かしの童謡を唄う		
8月	活動なし		2月	懐かしの童謡を唄う		
9月	懐かしの童謡を唄う		3月	ひな祭り・春を中心とした曲を唄う		
職員担当フロア：2F東						

フラサークル

・活動日は不定期で行った。自由参加で1回の活動で15名～20名程の参加でした。

上肢のリハビリを兼ねて、ハワイアン曲に合わせハンドモーションの意味を説明しながら楽しく踊り、参加者にはレイを掛けてハワイに居る雰囲気を感じていただいた。

セラピー犬とのふれあい

・活動日は不定期で行った。セラピー犬との触れ合いを希望される方には、実際にセラピー犬に触れて、癒しを感じていただけた。会うのを楽しみに待っていて下さっている方もおり、セラピー犬との触れ合いで自然な笑顔を見ることが出来た。

クラブ活動費実績：1,317,081円

10. 年間行事実施報告

第3サンシャインビル

平成29年度「年間行事計画実施表」

日時	曜日	行事名	内容
4月22日	土	観桜会	4階テラスにて演奏、太鼓、カラオケを楽しむ。
5月18日	木	運動会	地域交流室にて利用者様対象でユニットごとにチームに分け競技を行う。
7月22日	土	納涼祭	地域交流室、屋外スペースにてベリーダンス、よさこい盆踊りを楽しむ。
8月16日	水	夕涼み会	屋外スペースにて利用者、職員のふれいあいの場とし花火をして楽しむ。
9月16日	土	敬老会	地域交流室にて式典。大正琴演奏を楽しむ。各ユニットで祝膳。
9月24日	日	八幡神社 例大祭	地域イベントに参加し地域交流が行うことが出来た。
10月14日	土	敬老会	日の出町の敬老会に参加。
10月28日	土	文化祭	クラブ作品展示、歌手による歌披露、落語、演奏、茶道を楽しむ。
11月11、12日	土	文化祭	日の出町の文化祭に参加。
12月		クリスマス会	各ユニットで計画しクリスマス会を行い楽しむ。
1月2日	月	元旦式典	地域交流室にて式典。各ユニットで祝膳。
1月1・2・3日		初詣	八幡神社、熊川神社に初詣に行く。
1月10日	水	餅つき	地域交流室にて餅つきを行い楽しむ。
2月3日	土	豆まき	各ユニットに鬼が周り豆まきを行い楽しむ。各ユニットで祝膳。
3月3日	土	ひな祭り	各ユニットで祝膳。

行事費実績：1,190,729円

11. 事務費・固定資産物品報告

事務費報告

○事務消耗品費：4,171,310円
 ○通信運搬費：724,026円
 ○手数料：5,191,132円
 ○土地・建物賃借料：50,000円
 ○渉外費：123,160円

○印刷製本費：389,659円
 ○広報費：1,808,856円
 ○保険料：506,502円
 ○租税公課：208,980円
 ○諸会費：225,600円

○修繕費：592,142円
 ○業務委託費：7,233,321円
 ○賃借料：3,543,048円
 ○保守料：3,068,328円
 ○雑費：1,723,145円

12. 事故報告・ヒヤリ・ハット報告

自治体への事故報告

	転倒	転落	その他	計
4月	0	0	0	0
5月	0	0	0	0
6月	0	0	1	1
7月	0	0	0	0
8月	0	0	0	0
9月	0	0	0	0
10月	0	0	0	0
11月	1	0	0	1
12月	0	0	1	1
1月	1	0	0	1
2月	2	0	1	3
3月	2	0	0	2
合計	6	0	3	9

アクシデント報告

	転倒・転落	誤飲・誤食	誤薬・未薬	その他	計
4月	8	0	0	0	8
5月	1	0	0	2	3
6月	2	0	1	3	6
7月	4	0	1	2	7
8月	6	1	0	2	9
9月	3	0	0	1	4
10月	4	0	0	1	5
11月	6	0	2	2	10
12月	7	0	1	1	9
11月	4	0	0	9	13
2月	5	0	0	1	6
3月	1	0	2	3	6
合計	51	1	7	27	86

ヒヤリハット報告

4月	20
5月	18
6月	11
7月	15
8月	10
9月	15
10月	8
11月	14
12月	16
11月	20
2月	32
3月	15
合計	194

13. 職員研修報告

【外部研修】

研修日	研修内容	参加者
4月27日	要介護者に対する口腔ケア・摂食支援について	鈴木あけみ
5月11日	第3回特定給食施設栄養管理講習会	木村公紀
5月12日	平成29年度第3回特定給食施設栄養管理講習会	木村公紀
5月17日	増田屋 創業50周年記念 春の食品フェア	木村公紀
7月24日	西多摩保健所秋川地区特定給食研究会	木村公紀
8月18日	施設職員向け福祉用具講習会	成田勝美 栗野恵美 伊沢利恵
8月28日	西多摩保健所秋川地区特定給食研究会	木村公紀
9月7日	平成29年度 指定更新事業者研修会	齋藤澄子
10月4日	施設ケアマネのためのステップアップ研修 「ケプランとは…？」を今一度考える	中嶋弘美 石川総恵
10月16日	栄養管理講習会	木村公紀
10月30日	西多摩保健所秋川地区特定給食研究会	木村公紀
11月10日	西多摩保健所秋川地区特定給食研究会	木村公紀
11月15日	ショートステイ情報交換会	中嶋弘美
9/18～11/16	平成29年度第1期 東京都介護支援専門員専門研修課程Ⅱ	柴田則子
12月18日	西多摩保健所秋川地区特定給食研究会	木村公紀
2月1日	認知症の方への食のサポート	木村公紀
2月8日	高齢者のフレイル対策への栄養面からのアプローチ 事業研修会	木村公紀
2月15日	平成29年度 接触嚥下機能支援事例検討会	木村公紀
3月9日	西多摩保健所特定給食協議会合同研修会	木村公紀
3月9日	決算初心者編（会計ソフト操作説明）	小澤俊太郎
3月16日	平成29年度 生活相談員研修委員会 全体会	中嶋弘美
3月19日	決算法人説明会	小澤俊太郎
3月22日	介護報酬請求事務に関する研修会	上沖早紀

【内部研修】

開催月	研修内容	講師
随時	新人職員研修	
4月	褥瘡予防	機能訓練指導員（小倉）
5月	ターミナルケア	齋藤施設長
6月	事故防止安全対策・緊急時の対応	成田（介護職員）
7月	感染症について	桶田（看護職員）
8月	ケアプラン・記録	中嶋（相談員）
9月	身体拘束・人権擁護	伊沢（介護職員）
10月	虐待防止	栗野（介護職員）
11月	認知症理解	篠崎（介護主任）
12月	感染症について	竹田（看護職員）
1月	事故防止安全対策	菅野（介護職員）
2月	個人情報・プライバシー保護	小澤（事務長）
3月	メンタルヘルス	高崎（看護職員）

※毎月 福陽会理念に対する研修を行う

開催月	ユニット単位対象 研修内容	担当者
5月	食事介助	木村（管理栄養士）
7月	入浴介助	入浴委員会
9月	体位交換	小倉（機能訓練指導員）
11月	口腔ケア	外部（アイ・デンタル・オフィス）
1月	排泄介助	排泄委員会
3月	接遇マナー	篠崎（介護主任）

旅費・研修費実績：115,398円

14. ボランティア・慰問 受け入れ状況報告

平成29年度もボランティアや慰問の方々を社会資源として、積極的にボランティアの受け入れを行い、新たにボランティア登録して頂いた方や定期的に来て下さる方など、活動者も増えてきている。

日の出幼稚園との交流では、子供達の催し物に、涙を流しながら喜ばれている利用者様も多くおり、とても良い機会となった。今後も、ボランティア・慰問の積極的な受け入れを行い、社会福祉協議会とも連携をとり、地域に根差した施設を目指していく。

地域交流室の開放についても日の出町ニュースを語る会や卓球連盟、インディアカなどのサークル活動の場として提供した。

●新規のボランティア活動登録者

豊島道子様（草むしり・傾聴）

井上和子様（傾聴）

船木明志様（傾聴）

よろずシアター様（紙芝居・絵本・歌・寸劇など）

15. 消防訓練実施結果

平成29年度は、震災への対応も含めた避難訓練に重点をおく訓練を行った。また寝たきりの利用者についても積極的に取り組む意識が出てきている。職員全体に意識付けが出来た。また、消防訓練参加者チェック表を作成し、一人でも多く参加してもらうようにした。

【29年度訓練内容】

実施日	訓練種別	内容
4月	消火通報訓練	消火器及びスプリンクラー設備の取扱い訓練・119番通報要領訓練 秋川消防署職員による指導を受け訓練を行った
5月	自衛消防訓練	秋川消防署主催の自衛消防審査会に参加するための訓練 非常に熱心に訓練に取り組んだ
6月	自衛消防訓練	同上 消防審査会にて第3位をとる事が出来た
7月	防災ビデオ上映	災害についての意識付けを行う 休憩室にて上映を行い、多くの職員への意識付けが出来た
8月	総合訓練 (夜勤帯想定)	地震・火災を想定した一連の訓練 限られた人数しかいない事を想定し訓練を行った
9月	総合訓練 (日勤帯想定)	地震・火災を想定した一連の訓練 日勤帯の訓練、指導を行った

10月	消火通報訓練	消火器及びスプリンクラー設備の取り扱い訓練・119番通報要領訓練 参加者全員で消火器を使用した訓練を行った
11月	避難訓練 (日勤帯想定)	寝たきりの利用者を想定し、毛布・タオルケット等を使用した訓練及び応援体制の訓練 秋川消防署職員による指導を受け訓練を行った
12月	総合訓練 (夜勤帯想定)	地震・火災を想定した一連の訓練 総合訓練を重ね、実践に備えた
1月	避難訓練 (夜勤帯想定)	寝たきりの利用者を想定し、毛布・タオルケット等を使用した訓練及び応援体制の訓練 多くの職員が参加し、訓練に取り組んだ
2月	防災ビデオ上映	災害についての意識付けを行う 休憩室にて上映を行い、多くの職員への意識付けが出来た
3月	総合訓練 (夜勤帯想定)	地震・火災を想定した一連の訓練 限られた人数しかいない事を想定し訓練を行った

16. ショートステイ事業報告

ショートステイの受け入れに関して、今年度も前年度同様、施設独自の売りを作って営業活動に励んだ。土日・祝日問わずに受け入れ態勢を整え、夕食後の送迎、事前にご自宅へ訪問して面接・契約などを行い、ご家族様の負担軽減を図るように努めた。その結果、ご利用者様・ご家族様・担当ケアマネジャーより利用しやすいなどの声を多くいただいた。営業活動等で色々な事業所との顔つなぎも出来て、今まで関わった事のない事業所からの問い合わせや、新規利用も増えてきたように感じている。しかし稼働が中々伸びていないのが現状である。繰り返し利用して下さる利用者様の獲得は出来ているが、近隣の特養や老健等多くあるため、ショートステイ専門10床を埋めていく事は難しい状況である。そのため今後も施設の『使いやすさ=売り』をアピールできるよう居宅介護支援事業所等への営業活動を増やし、ケアマネジャーとのつながり・連携を強めて行きたい。

ショートステイ利用後、ご利用者様やそのご家族様が施設内の生活を気に入られ、特養入所枠へ申し込みをされ、数日単位より週単位で利用される方も多くいるため、特養入所を見据えたご利用者様のショートステイの受け入れも推進していき、稼働率のアップを図って行きたい。

平成29年度稼働率

4月	5月	6月	7月	8月	9月
80.0%	74.2%	72.0%	68.7%	84.2%	70.0%

10月	11月	12月	1月	2月	3月
66.8%	43.7%	35.5%	49.7%	47.9%	78.4%

介護報酬収入等年間実績 32,342,258円